このたびは数あるスピーカーの中から GENELEC M030/M040 をお選びいただきありがとうございました．

製品の概要

M030/M040 はニアフィールド・モニタリング用に設計されたコンパクトな 2 ウェイのアクティブ・モニター・スピーカーで，ドライバー・ユニットとパワー・アンプ，アクティブ・クロスオーバー・フィルター、保護回路を内蔵しています．
この M シリーズ・スピーカーの NCE ™（Natural Composite Enclosure）は自然の複合繊維素材でできており，素材の半分は木質繊維です．このエンクロージャーはエッジ回折を低減するような形状に作られ，最新鋭の DCW ™（Directivity Control Waveguide）を一体化しています．このデザインは音響的に悪条件な環境でも優れた周波数バランスを提供します．

スピーカーの配置

開梱後，スピーカーを希望する場所に配置してください．スピーカーの音響軸がリスナーを狙うように角度を調整します（図 1 参照）．

接続

信号源に接続する作業の前にスピーカーの電源を切ってください．電源スイッチは背面パネルにあります（図 2 参照）．付属の電源コードを使って本機を電源コンセントに接続します．
音声入力はバランス式の XLR または 1/4" TRS フォーン・ジャック（コンボ・コネクター）あるいは RCA コネクターを介します．パワー・アンプや一体型アンプやレシーバーのスピーカー出力には本機を絶対に接続しないでください．
接続が完了したら，スピーカーの電源を入れることができます．

ISS ™オートスタート機能

本機は背面パネルに電源スイッチがあります．本機を長期間使わないときやケーブルの抜き差しを行うときにはこのスイッチを OFF 位置にしてください．
このスイッチを ON の位置にしてある場合，入力信号が検出されると ISS ™（Intelligent Signal Sensing）機能がスピーカーの電源を入れ，スピーカーのモード表示ライトが点灯し，わずかに遅れて（2 秒以内）スピーカーが鳴り始めます．無信号状態が 30 分程度続くと ISS ™がスピーカーの電源を切り，スピーカーは待機状態に入ります．待機時の消費電力は 0.5 W 以下です．

再生レベル設定

本機の再生レベルは背面パネルの Level スイッチを使って信号ソースの出力にマッチさせることができます．3 つの設定が利用できます．希望する再生レベルと良好な音量調整の解像度が得られるものを選んでください．

トーン・コントロール設定

本機の周波数特性は背面パネルのトーン・コントロール・スイッチ Bass Level と EQ を設定することで音響環境にマッチするように調整できます．表 1 は様々な状況での設定例を，図 4 と図 5 は無響室周波数特性へのコントロールの効果を示します．

Bass Level：スピーカーを壁の近くに配置する場合に通常はこのスイッチが必要になります．減衰レベルは -2 dB と -4 dB です．このスイッチの中央位置（Free space）はスピーカーを壁から離して設置する場合に適しています．

EQ：EQ スイッチは 2 つの機能を持っています（中央位置では何の効果もありません）：

1）Tabletop EQ：スピーカーをテーブルの上に置く場合はこの機能を使うことをお薦めします．このような置き方をすると中低域にカラーレーションが発生することが多く，それを補正するためにこの機能を搭載してあります．

2）Bass EQ：スピーカーを部屋のコーナーの近くに置く場合に，この機能で 200 Hz より下の低域を減衰させることができます．これで低音が重すぎたりブーミーに再生されるのを補正できます．

スピーカー配置時の注意

- **向きを正しく：**音響軸が必ずリスニング・ポイントを向くように配置しましょう（図 1 参照）．クロスオーバー周波数周辺での周波数特性の線形性が一番良く保たれますので，本機は縦置してください．スピーカー底面に付属のフェルトのシートを貼り付けてください（図 3 参照）．
- **左右対称を保つ：**本機が左右対称かつリスニング・ポイントから等距離に置かれていることを確認しましょう．可能ならばリスニング・ポイントが部屋の中心線上に来て，スピーカーが中心線から等距離になるようにシステムを設置してください．
- **音反射を最小にする：**本機に近い机や棚や PC モニター等の物体からの音反射は音に不要なカラーレーションを発生させることがあります．本機をそのような表面から離して設置すれば音反射を最小限に抑えることができます．例えばスピーカーをテーブルの奥または上に配置したスタンドに載せてリスニング・ポイントを狙うように下向きに傾ければ，通常はテーブル上に直置きした場合よりも良い結果が得られます．
- **最小の隙間：**アンプの冷却とバスレフ・ポートの動作に必要な空間を十分に確保してください．本機の周囲は，背後と上及び左右両側に最小 3 cm の隙間が必要です．周囲温度が 35℃を越えないようにしてください．

本機のバスレフ・ポートはエンクロージャー底面に開口しています．この開口部をふさがないでください．

保守作業

スピーカー内にはユーザーが交換可能な部品はありません．本機の保守や修理は資格のあるサービスマンにお任せください．

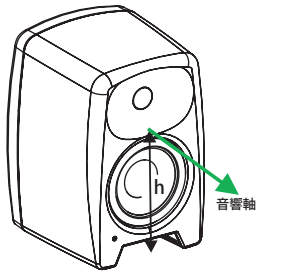
安全に関する注意事項

本機は国際的な安全規格に従って設計されていますが，安全な動作を確実にするため，また本機を安全な使用条件下に保つためにも以下の注意事項はお守りください：

- 保守や調整は資格のあるサービスマンが行ってください．本機を分解しないでください．
- 本機を水や水分にさらさないでください．液体の入った容器（例えば花瓶）をスピーカーの上や近くに置かないでください．
- 本機は恒久的な聴覚障害を引き起こし得る 85 dB を越える音圧レベルを出すことができますのでご注意ください．
- 十分な冷却を保つために本機背面には空気が自由に流れることが必要です．本機周囲の空気の流れを妨げないでください．
- 電源コードを本機または電源コンセントから抜かないかぎりアンプは AC 電源から完全には切り離されません．

表 1　様々な音環境に対するトーン・コントロールの推奨設定

スピーカーの設置場所	Bass Level スイッチ	Bass EQ ポジション	Tabletop EQ ポジション
音響反射のない無響室	Free Space	OFF	OFF
吸音処理された部屋でフロアスタンドに設置	-2 dB	OFF	OFF
音響反射がある部屋でフロアスタンドに設置	-4 dB	OFF	OFF
テーブル等の反射性表面上にありリスナーに近い	-2 dB	OFF	ON
部屋のコーナー	-4 dB	ON	OFF



モデル	M030	M040
h（音響軸の高さ）	175 mm	210 mm

図 1：音響軸の位置

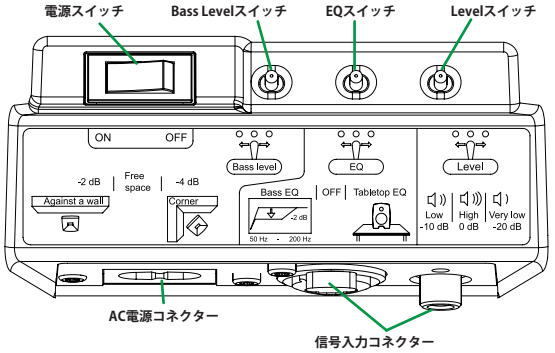


図 2：背面のコネクターとコントロールの配置

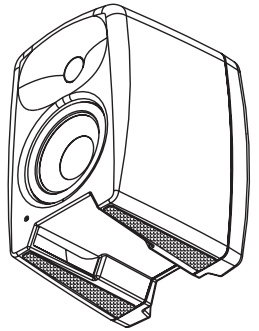


図 3：スピーカー底面に付属のフェルトのシートを貼る

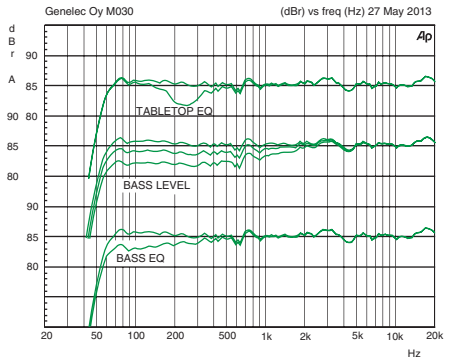


図 4：M030，トーン・コントロールの周波数特性

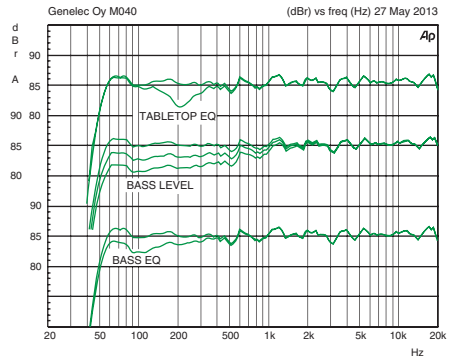


図 5：M040，トーン・コントロールの周波数特性

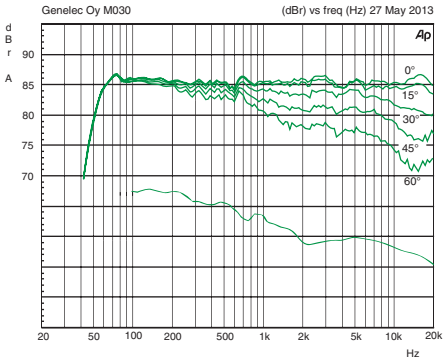


図 6：M030，水平角度の違いによる周波数特性の変化（上側）とシステム特性（下側）

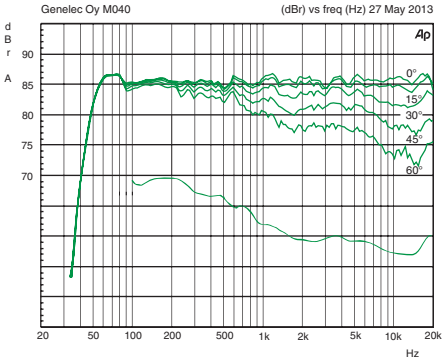


図 7：M040，水平角度の違いによる周波数特性の変化（上側）とシステム特性（下側）

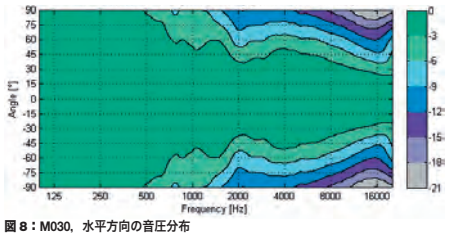


図 8：M030，水平方向の音圧分布

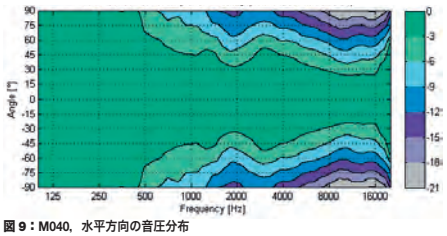


図 9：M040，水平方向の音圧分布

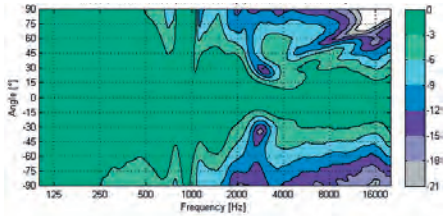


図 10：M030，垂直方向の音圧分布

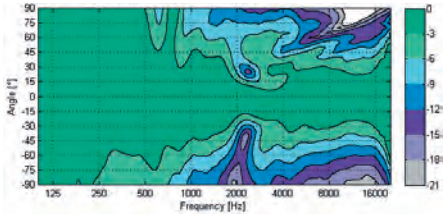


図 11：M040，垂直方向の音圧分布

システム仕様

モデル	M030	M040
最大音圧レベル（半空間・軸上の短期正弦波出力，100～3,000 Hz を平均，@ 1 m）	103 dB SPL	107 dB SPL
再生周波数範囲（-3 dB）	58 Hz ～ 21 kHz	48 Hz ～ 20 kHz
クロスオーバー周波数	3 kHz	2.5 kHz
ドライバー口径	低域 130 mm ＋高域 19 mm	低域 165 mm ＋高域 25 mm
パワー・アンプ定格出力 *	低域 50 W ＋高域 30 W	低域 80 W ＋高域 50 W
信号入力コネクター	バランス式XLR+1/4" TRSフォーン・ジャック（コンボ・タイプ）／アンバランス式RCA	
入力インピーダンス	10 k Ω	
レベル制御：3-pos. トグル SW による出力レベル（0 dBu 入力時）	106 dB SPL（0 dB），96 dB SPL（-10 dB），86 dB SPL（-20 dB）	
Bass level 制御	0，-2，-4 dB（@ 100 Hz）	
Tabletop EQ 制御	-3 dB（@ 230 Hz）	-3 dB（@ 210 Hz）
Bass EQ 制御	-2 dB（@ 80 Hz）	
電源電圧	AC100 ～ 120 V / AC220 ～ 230 V（付属の電源コードは 100 V 専用です）	
消費電力　待機時 / アイドリング時 / 最大出力時	< 0.5 W / 8.5 W / 40 W	< 0.5 W / 10 W / 60 W
重量	4.6 kg	7.4 kg
寸法（H×W×D）	273×190×190 mm	337×235×229 mm

*）連続出力パワーはドライバー・ユニットの保護回路によって制限されます．
仕様及び外観は予告なく変更になる場合があります．

品質保証
本機は購入後 2 年以内に製造上の問題が原因で故障した場合は無償修理いたします．修理等については購入された販売店またはオタリテック株式会社にお問い合わせください．
オタリテック修理窓口　〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
オタリテック株式会社　技術部サービス課
TEL 03-6457-6022 ／ FAX 03-5285-5282（電話受付時間 平日 9:00 ～ 18:00）

修理依頼時の確認事項
1. 型番 M030 または M040（エムゼロサンゼロまたはエムゼロヨンゼロ）
2. シリアル番号（本体背面に表示）
3. 購入年月日 / 製品登録カードの有無
4. お買い上げの販売店名
5. ご使用時の電源電圧
6. 故障の症状

この取扱説明書はフィンランド GENELEC 社の許諾を受け，オタリテック株式会社が英語版 “M030/M030 Operating Manual”（2013-09）を翻訳・編集したものです．当社の許可無く複製すること，及び取扱説明書本来の目的と異なる用途に使用することを禁止します．
Japanese translation ©2013 Otaritec Corp.

日本語版アクセサリー・カタログはオタリテック株式会社ウェブサイトの GENELEC ページからダウンロードできます．

GENELEC 日本総代理店 **オタリテック株式会社**
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
TEL 03-6457-6021 ／ FAX 03-5285-5281　www.otaritec.co.jp

D0094R001J1

M030
M040

Operating Manual
GENELEC M030/M040
Active Monitoring System

GENELEC®

オタリテック株式会社

2013-09
rev. 2013-11